

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名 一般国道492号 <small>あなぶき</small> 穴吹バイパス 起終点 白：徳島県美馬郡穴吹町穴吹 至：徳島県美馬郡穴吹町穴吹	事業区分 一般国道	事業主体 徳島県 延長 1.3km																										
事業概要 一般国道492号は高松市を起点として高知県大豊町に至る幹線道路であり、特に美馬郡内においては穴吹町と木屋平村を結ぶ生命線となっている。当該箇所は、現道が国道192号交差点から南側の商店や人家の密集する地区を通過し、幅員が狭く歩道も未設置で、またJR徳島線と踏切で交差しており円滑で安全な通行が阻害されている。 このため、東側にバイパス道路を整備することにより、JR線と立体交差して踏切を解消し、円滑で安全な交通を確保するものである。																												
H6年度事業化 H-年度都市計画決定 (H-年度変更) H9年度用地着手 H12年度工事着手																												
全体事業費 35億円 事業進捗率 63% 供用済延長 0km 計画交通量 7,000台/日																												
費用対効果分析結果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C (事業全体)</td> <td style="width: 20%;">3.8</td> <td style="width: 20%;">総費用 (事業)/ (事業全体)</td> <td style="width: 20%;">16/37億円</td> <td style="width: 20%;">総便益 (事業)/ (事業全体)</td> <td style="width: 20%;">140/140億円</td> <td rowspan="3" style="width: 20%; text-align: center;">基準年 平成15年</td> </tr> <tr> <td>(事業)</td> <td>8.8</td> <td>事業費</td> <td>14/35億円</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>135/135億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>維持管理費</td> <td>2/2億円</td> <td>走行費用減少便益</td> <td>5/5億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>交通事故減少便益</td> <td>0/0億円</td> <td></td> </tr> </table>			B/C (事業全体)	3.8	総費用 (事業)/ (事業全体)	16/37億円	総便益 (事業)/ (事業全体)	140/140億円	基準年 平成15年	(事業)	8.8	事業費	14/35億円	走行時間短縮便益	135/135億円			維持管理費	2/2億円	走行費用減少便益	5/5億円					交通事故減少便益	0/0億円	
B/C (事業全体)	3.8	総費用 (事業)/ (事業全体)	16/37億円	総便益 (事業)/ (事業全体)	140/140億円	基準年 平成15年																						
(事業)	8.8	事業費	14/35億円	走行時間短縮便益	135/135億円																							
		維持管理費	2/2億円	走行費用減少便益	5/5億円																							
				交通事故減少便益	0/0億円																							
事業の効果等 <ul style="list-style-type: none"> 物流効率化の支援（農林水産品の流通の利便性が向上） 国土・地域ネットワークの構築（大型車のすれ違い困難区間を解消する） 他 5項目に該当 																												
関係する地方公共団体等の意見 当該区間の現道は、幅員狭小で自歩道も未設置のため円滑で安全な通行が阻害されているため、穴吹町他2町村が加盟する「国道492号穴吹・木屋平間整備促進期成同盟会」が平成15年8月18日に早期整備を求める要望があった。																												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 周辺の開発が進み、JR踏切付近の交通渋滞がますます深刻化している。																												
事業の進捗状況、残事業の内容等 一部において用地補償交渉が難航し、工事着手までに長期間を要したが、現在までにJRアンダーボックスを施工し、H16年度より国道192号の立体交差点部の施工を行う。																												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 道路計画について地元調整に時間を要し、用地の取得が遅れ、工事の着手が遅れたが、現在は順調に進捗しており、早期供用を図る。																												
施設の構造や工法の変更等 JR線アンダーボックスの施工を、工事桁に比べ軌道への影響が少ない工法を採用した。																												
対応方針 事業継続																												
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。																												
事業概要図 																												

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。